

町民の声



金山町農業委員
柿崎 修 さん
(内町・66歳)

●新体制でスタート

7月20日に辞令が交付され、「農業委員」としての仕事が始まりました。委員メンバーの中で最年長の新人委員のスタートです。

農業委員会法の改正により、農業との利害関係のない「中立委員」が必要とのことで応募し、任命されました。そのようなことから、「公正」、「公平」な判断のもとに農地の斡旋、調整等に努めたいと思っております。

●遊休農地など土地有効利用を

8月25日の第3回の総会終了後に、初めての「農地パトロール」で、全町を全委員で巡回しましたが、マイクロバスから見る視界の範囲でも、結構活用されていない農地があることに驚きました。

自分は、東北農政局の委託を受けて、毎年「面積調査」で金山町の20箇所の作付け面積と作付け状況を調査しておりますが、その調査の過程でも遊休農

地予備軍の多さを実感しています。

自分一人の視野でもそれだけあるのですから、山間部やその近辺には見えていない遊休農地予備軍の存在が危惧されてなりません。遊休農地については、固定資産税が1.8倍になることから、その対策は急務と考えられます。

●議員と語る会で情報共有

高齢化により耕作ができなくなったり、農業者の死亡により放棄されたり、また、相続手続きがされないために放置せざるを得なかったり、いろいろな事情で遊休農地の増加が予測されます。

先日、農業委員会の研修で、弘前市農業委員会の蒲田事務局長から「地域人材の活用による遊休農地の解消」の講演を聴く機会を得ましたが、正にそのようであることは思いつつも、「じゃあ、この小さい金山でどげすんなや？」と考えてしまいました。

確かに、市と町での規模の大小はあるが、その対策は、先進事例に学び、金山方式として地域の方々に協力をお願いし、できることから解消していくことが急務だと思います。

こうした問題を8月25日に開催された「議員と語る会」で共有されたことは有意義であったし、議会もまた地域農業振興について更なる議論を深めて行なって欲しいと願っています。

議会豆知識 No.10

●常任委員会について

議会が、広範多岐にわたり、しかも専門化技術化していく地方公共団体の事務を合理的・能率的に調査し、審議するためには部門別に委員会を設けており、「常任委員会」と言われています。

町には現在、町議会委員会条例に基づく3つの常任委員会があります。10名の議員が総務課、町民税務課、出納室、教育委員会、選挙管理委員会及び監査委員に関する事務などを所管する「総務文教常任委員会」（5名）と、産業課、環境整備課、農業委員会、健康福祉課及び診療所を所管する「産業厚生常任委員会」（5名）とに分かれて所属する他、これとは別に議会広報に関する事務（主に「議会だより」の発行）を所管する「議会広報常任委員会」（5名）が設置されています。

いずれの委員会も選任された委員長を中心に、議会開会中に限らず精力的に活動を進めています。

ギインコラム No.4

朝晩、めっきり寒さを増し、「こたつ」の恋しい時節となりました。

皆さん、如何お過ごしでしょうか。

今年も、全国的に地震や集中豪雨に見舞われ、追い打ちを駆けるように、北朝鮮で発射した「ミサイル」が、日本の上空を数回通過したことは、大変心が痛む。対処策を注視したい。

また、夏の天候不順で、農業の遅れと作柄が大変心配されますが、収穫の秋の喜びを期待しています。

近年、各地区に「クマ」が頻繁に出没するのも、自然環境の異変を訴えているのでしょうか。

(文責 矢口 政一)

発行責任者

■ 議会議長 柴田 清正

議会広報常任委員会

■ 委員長 沼澤 道也
■ 副委員長 中村 忠行
■ 委員 高橋 芳夫
高橋 浩樹
早坂 憲明

12月議会定例会は12月7日(木)～11日(月)の予定です
町民の皆様のご傍聴をお待ちしています

